

『手袋』より「行為」

多くの版画が連作として制作されていることです。クリンガーは生涯に14組の版画連作を残し、音楽に用いられる作品番号(Opus)をつけています。連作は必ずしも明確なストーリーに沿って展開するわけではありませんが、個々の作品が互いに響きあうことでイメージの世界をふくらませていきます。

油彩画家であり彫刻家でもあったクリンガーは、技法と表現は一体でなければならないと考えていました。版画については、色彩を使わないため現実を再現する力は弱いかわりに、芸術家の主観や幻想を表現し、見る人が想像により自由に解釈する余地が残されると述べています。『手袋』『ドラマ』『ある愛』、三つの連作をみなさんの想像力とともに楽しみ下さい。

1.

『手袋』 A Glove (Opus VI)

1880年(展示作品は1924年刊第5版)

若きクリンガー自身の恋を題材とした物語。主人公の男性は、ある日、ローラースケート場で憧れの女性の手袋を片方、偶然に拾います。そして、その手袋を家に持ち帰った夜に、彼女への想いと罪の意識が夢となり、手袋をめぐる幻想が繰り広げられます。手袋は大きさをかえ、左手になり右手になり、ある時はなされるがままに、またある時は堂々と意思を持ち、嵐の海を漂い、馬車を御し、怪物にさらわれ、夢の中を縦横無尽に駆け巡ります。『手袋』はシュルレアリスムの先駆的作品として高く評価される、クリンガーの版画の代表作ですが、同時に最も解釈の難しい作品とも言われています。果たしてクリンガーの恋は実ったのでしょうか？

1. 場所 Place 255×349mm エッチング、アクアチント

2. 行為 Action 300×209mm エッチング

3. 願望 Yearnings

318×139mm エッチング、アクアチント

## マックス・クリンガーの銅版画

マックス・クリンガー(1857-1920)はドイツの画家、彫刻家、版画家です。ライプツィヒの裕福な石炭工場主の次男に生まれ、息子の才能に気付いた父親のすすめで絵画を学ぶことになりました。ベルリン・アカデミーを優秀な成績で卒業したのちは、イタリアはじめヨーロッパ各地に滞在して国際的にも評価を得ました。1894年にはライプツィヒで最初の大回顧展が開かれ、ベルリン王立アカデミーの正会員となりました。1903年からはドイツ美術家連盟副会長を務め、後進の育成に寄与しました。

クリンガーの版画の特長は、卓越したデッサン力と高度な銅版画技法による繊細で細密な描写にあります。隅々まで神経の行き届いた隙のない画面は克明なまでに写実的ですが、時に白昼夢のような不思議な世界を描き出し、シュルレアリスムの先駆者とも評されています。そしてもうひとつの特長は、

4. 救助 Rescue 238×180mm エッチング

5. 凱旋 Triumph 144×268mm エッチング

6. 求愛 Homage 158×327mm エッチング

7. 不安 Anxieties 142×269mm エッチング

8. 平安 Repose 143×271mm エッチング

9. 横奪 Abduction  
118×270mm エッチング、アクアチント

10. アモール Cupid 142×268mm エッチング

3. ある母親 I A Mother I  
459×280mm エッチング、アクアチント

4. ある母親 II A Mother II  
460×317mm エッチング、アクアチント

5. ある母親 III A Mother III  
459×358mm エッチング

6. 森の中 In the Forest 458×316mm エッチング

7. 殺人 A Murder  
458×318mm エッチング、アクアチント

8. 三月の日々 I March Days I  
448×358mm エッチング、アクアチント

9. 三月の日々 II March Days II  
460×358mm エッチング、アクアチント

10. 三月の日々 III March Days III  
456×315mm エッチング、アクアチント

## 2.

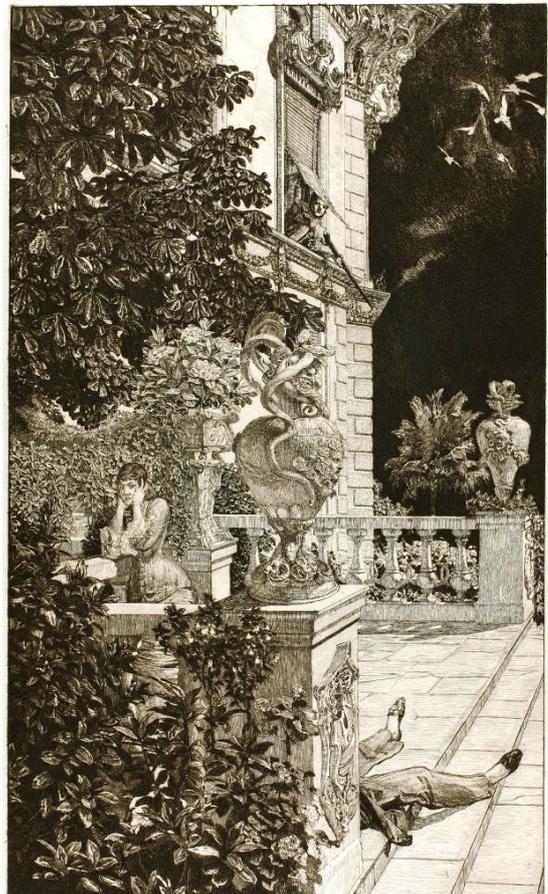
### 『ドラマ』 Dramas(OpusIX)

1883年(展示作品は1922年刊第6版)

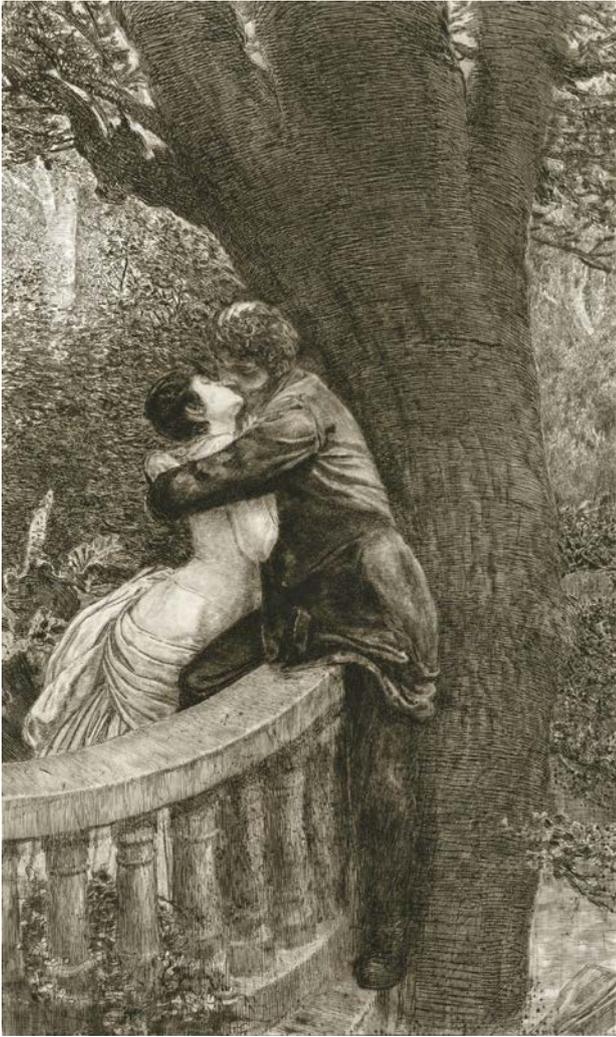
クリンガーが生きた19世紀後半のベルリン社会の矛盾を描いた版画集です。自邸のバルコニーで愛人と密会する妻と、二階の窓からその愛人を撃ち殺す夫。娼婦への一步を踏み出す若い女性。貧しい生活と夫の暴力に耐えかねて親子心中を図ったものの、自分だけ助かり、裁判にかけられる母親。森の小道の脇に置かれた衣服と手紙が暗示するのは、持ち主の自殺です。白昼の殺人、取り押さえられた男の手には刃物が握られています。華やかな都市生活の裏側で、社会の矛盾や因習に縛られ、抑圧され、落伍していく人々の姿です。版画集の最後におかれた「三月の日々」は、これらの悲劇を生み出した社会体制を破壊する試みである革命を描いています。街頭で改革を叫び高揚する群集、しかし市街戦は鎮圧され、連行されていく人々を冴え冴えとした月が照らし出します。冷徹なまでに克明に描かれた画面からは、クリンガーのやり場のない怒りと深い悲しみが伝わってきます。

1. 眼の前で In Flagranti 461×369mm エッチング

2. 一步 A Step 456×280mm エッチング



「眼の前で」



「公園で」

### 3.

#### 『ある愛』 *A Love*(OpusX)

1887年（展示作品は1903年刊第4版）

個人蔵

上流階級のある女性の愛と破滅の物語。公園に行く馬車の中に座る女性をじっと見つめる男性。彼は女性の邸宅の前で待ち伏せし、彼女が門から出てきたところに駆け寄り、手に接吻（せつぶん）します。やがてふたりは愛し合い結ばれますが、この場面のあとに入れられた「間奏」には死と悪魔の前にひざまずくアダムとイブが描かれ、物語の結末を暗示します。愛の夢は醒（さ）め、女性は妊娠に気付きます。家を追われたのでしょうか——質素な身なりとなった女性のはだいで歩き、その傍らでは「悪い噂」の擬人像（ぎじんざう）が彼女を嘲（あざけ）り（彼には影がありません！）、壁の上からは人々が好奇の目を向けています。やがて出産の日を迎えますが、死産の子は死神の手に奪われ、女性も命を落とします。男性が泣き崩れていることを彼女は知っていたのでしょうか。版画集の中でクリンガーは女性の社会的な破滅を人間の「原罪」と結

びつけていると言われますが、それとともに、当時の人々を縛（しば）り付けていた因習的な道德と偽善への疑問を投げかけているようにも感じられます。

#### 1. 献辞 *Dedication*

456×357mm エッチング、エングレーヴィング

#### 2. 出逢い *First Encounter* 449×270mm

エッチング、エングレーヴィング、アクアチント

#### 3. 門の前で *At the Gate*

455×316mm エッチング、エングレーヴィング

#### 4. 公園で *In the Park*

457×279mm エッチング、エングレーヴィング

#### 5. 幸せ *Happiness* 457×320mm

エッチング、エングレーヴィング、アクアチント

#### 6. 間奏 *Intermezzo*

246×457mm エッチング、エングレーヴィング

#### 7. 新たな幸せの夢 *New Dreams of Happiness*

458×357mm エッチング、エングレーヴィング

#### 8. 目覚めて *Awakening*

457×314mm エッチング、エングレーヴィング

#### 9. 恥辱 *Shame* 458×318mm

エッチング、エングレーヴィング、アクアチント

#### 10. 死 *Death* 319×456mm

エッチング、エングレーヴィング、アクアチント

### 4.

#### 『アモールとプシュケ』

#### *Cupid and Psyche. A Fairlytale by Apuleius*(Opus V)

1880年 352×254mm（本） 全46図

エッチング、アクアチント/木版（飾り枠）

2世紀後半にローマの作家アプレイウスによって書かれた物語。愛と美の女神ヴィーナスは美しい人間の娘プシュ

ケに嫉妬し、射られたものが恋に落ちてしまう矢を用いて彼女を不幸な恋に落とすよう、息子アモール（キューピッド）に命じます。ところがプシュケの美しさに心を奪われたアモールは矢でうっかり自分の手を傷つけ、恋に落ちてしまいます。何も知らずに谷間の宮殿に連れてこられたプシュケは、謎の花婿（アモール）と結ばれます。プシュケは、暗闇の中だけに姿を現す夫の姿を決して見てはいけなと命じられていたにもかかわらず、ある晩、彼の顔をあかりで照らしてのぞき見てしまいます。飛び去ってしまった夫を探して世界中をさまようプシュケは、最後にヴィーナスを訪ねます。女神が次々出す難題をなんとか切り抜けますが、冥界の女王ペルセポネの「美の箱」を開け、永遠の眠りに落ちてしまいます。そこにアモールが現れ、プシュケを連れて大神ゼウスのもとに向かい、二人の結婚を許してくれるよう直訴します。ゼウスは彼らの願いを受け入れ、プシュケは神の酒を飲んで不老不死となります。やがて娘も生まれ、二人はいつまでも幸せに暮らしました。

クリンガーのエッチング集のうち、既存のテキストに挿絵をつけた唯一の作品。全ページ大の挿絵15点と、文字ページに貼られた小さな挿絵はエッチング、各ページを彩る美しい枠飾りは木版によるものです。



「アモールにプシュケを示すヴィーナス」

## 浮世絵玉手箱

歌川ひろしげ (1797-1858)

富士三十六景 下総小金原

安政5年(1858) 木版多色

穏やかな湿地の緑のなか馬たちが遊ぶ、心和む風景。はるか遠くには富士山もみえています。

本図の舞台である下総小金原(現在の千葉県松戸市)に、かつて江戸幕府直轄の馬の放牧場があったことになんで、馬が描かれたと考えられます。

楊洲周延 (1838-1912)

温故東の花第五篇 將軍家於小金原御猪狩之図

明治26年(1893) 木版多色

楊洲周延は明治に活躍した絵師ですが、この「温故東の花」シリーズでは、江戸時代の風俗をテーマに懐古的に描いています。「富士三十六景 下総小金原」の舞台と同じ小金原での猪狩の様子が、三枚続きの大きな画面に展開されています。

## 蛙地梅太郎(1902-99)コーナー

畑の中の家

1928年頃 204×270mm 鉛凸版

『2600年版 山』より 瓶が森(イヨ)

1940年 301×450mm 木版多色

ザイル

1957年 345×216mm 木版多色

季節の山(三)

1968年 498×379mm 木版多色